

〔水稲〕

1. 作付の概況

九州における平成 30 年産の水稲作付面積（子実用）は 16 万 0,400ha で、前年産に比べて 2,700ha（対前年産比 1.7%）減少し、うち、主食用作付面積は 15 万 6,100ha で、前年産に比べて 2,600ha（同 1.6%）減少した。また、沖縄の水稲作付面積は 716ha で、全て主食用で前年産に比べて 11ha（対前年産比 1.5%）減少した。品種毎の作付面積を見ると、「ヒノヒカリ」及び「コシヒカリ」は近年変動が小さく、それぞれ九州の作付品種の 47%と 10%を占めた。その他、「夢つくし」、「元気つくし」、「夢しずく」、「さがびより」、「森のくまさん」、「にこまる」、「あきほなみ」、「ひとめぼれ」、「つや姫」、「なつほのか」、「おてんとそだち」等多数の品種が県毎に作付けされている。

2. 作柄の概況

九州における平成 30 年産水稲の作柄は、梅雨明け以降高温多照に経過したものの、9 月中旬以降の日照不足により登熟が抑制されたこと等により、九州の 10 a 当たり収量は 512 kg（前年産に比べて 2 kg 増加）となり、沖縄の収量は 308 kg（前年産に比べて 7 kg 増加）となった。九州全体における作況指数は「102」で「やや良」であった。県別の作況指数では、大分県、宮崎県、鹿児島県と沖縄県が「100」の「平年並み」で、佐賀県が「102」、熊本県が「103」と福岡県が「104」で「やや良」であった。

3. 生育の概況

1) 普通栽培水稲

梅雨明け以降、高温多照で経過し、全籾数は「やや多い」から「多い」となったものの、9 月中旬以降の日照不足等から登熟が不良となり、福岡県、佐賀県、長崎県及び熊本県は「やや良」、大分県、宮崎県及び鹿児島県は「平年並み」となった。このことから、10 a 当たり収量は、福岡県は 518 kg（作況指数「104」）、佐賀県は 532 kg（同「102」）、長崎県は 499 kg（同「104」）、熊本県は 529 kg（同「103」）、大分県は 501 kg（同「100」）、宮崎県は 505 kg（同「99」）、鹿児島県は 490 kg（同「100」）、沖縄県は 151 kg（同「91」）となった。

2) 早期栽培水稲

主産県である宮崎県、鹿児島県ともに幼穂形成期から出穂期にあたる 5 月下旬から 6 月中旬にかけて日照時間が平年を下回ったものの、7 月中旬以降は平年を上回っていたことから、登熟が「平年並み」となった。10 a 当たり収量は、宮崎県が 476 kg（作況指数「100」）、鹿児島県が 450 kg（同「101」）、沖縄県が 364 kg（同「101」）となった。

4. 被害の概況

普通栽培では、気象被害は、一部地域で6月下旬から7月上旬にかけての梅雨前線及び台風7号の豪雨による冠水、土砂流入等が見られた。病害としては、いもち病等が平年に比べて少なく、紋枯病がやや多く見られた。虫害等では、一部地域でカメムシがやや多い発生となった。総体的に被害は平年に比べてやや少ない発生となった。

早期栽培では、気象被害として、台風接近の影響で、一部地域で倒伏が見受けられた。病害は、いもち病、紋枯病の発生が平年に比べてやや少なく、虫害等では、スクミリンゴガイ及びカメムシの発生がやや少なく見られた。総体的に被害は、平年に比べてやや少ない発生となった。